

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな 経済フラッシュ

(日銀金融政策決定会合)

2019/6/20

りそなホールディングス 市場企画部

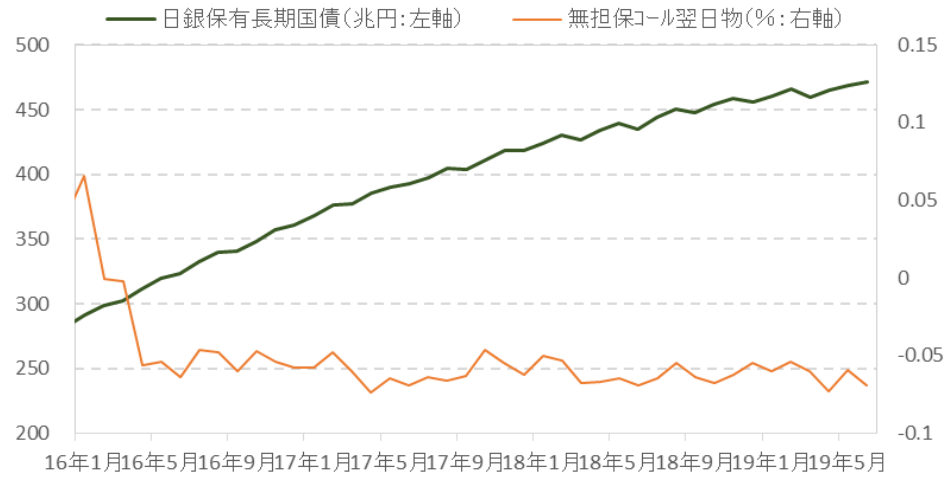


〇概況

- ◆ 政策金利▲0.1%、10年金利目標水準0%程度、国債買入れペース年間80兆円めどは変更なし
- ◆ 景気判断は「基調としては緩やかに拡大している」と据置き
- ◆ 政策金利のフォワードガイダンスは「2020年春頃まで」と変更なし

- ✓ 日本銀行は6月20日の金融政策決定会合にて、「**長短金利操作付き量的・質的金融緩和**」の継続を決定した。
- ✓ 主な政策は以下の通り。
- ✓ 政策金利のフォワードガイダンス：海外経済の動向や消費税率引き上げの影響を含めた経済・物価の不確実性を踏まえ、当分の間、現在のきわめて低い長短金利の水準を維持。
- ✓ 長短金利操作（イールドカーブ・コントロール）：日銀当座預金残高のうち、政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用。また、10年国債利回りがゼロ%程度で推移するよう、長期国債買入れを行う。買入れ額は保有残高の増加額年間約80兆円をめどとしてつつ弾力的に実施。金利は、経済・物価情勢に応じて上下にある程度変動しうるものとした。ETF・J-REITの買入れは、それぞれ年間約6兆円・約900億円ペースで保有残高拡大。CP等・社債等はそれぞれ約2.2兆円・約3.2兆円の残高を維持。
- ✓ 足元の景気判断については、「輸出・生産面に海外経済の減速の影響がみられる」ものの「緩やかに拡大している」との見方を維持した。個別項目についても前回の判断から特に変化はなかった。
- ✓ 政策運営方針については、米国や欧州で緩和姿勢が明確となる中で、日銀の声明文は、現行の判断の据え置きに留まった。**米欧の緩和的な金融政策スタンスから円高進行への警戒もあり、今後日銀も緩和姿勢を更に明確化する可能性がある。**黒田総裁を始めとする当局者の金融政策を巡る発言に引き続き注目が集まる。

【日銀が保有する長期国債残高と翌日物金利】



【2018-2020年度の政策委員の大勢見通し（4月時点）】

(対前年度比、%)	実質GDP		消費者物価指数 (除く生鮮食品)	消費税率引き上げ・ 教育無償化政策の 影響を除くケース
2019年度	+0.7%	~ +0.9%	+0.9%~+1.2%	+0.7%~+1.0%
1月時点の見通し	< +0.8% >	+1.0%	<+1.1%>	<+0.9%>
2020年度	+0.8%	~ +1.1%	+1.2%~+1.5%	+1.1%~+1.4%
1月時点の見通し	< +0.9% >	+1.0%	<+1.4%>	<+1.3%>
2021年度	+0.9%	~ +1.2%	+1.4%~+1.7%	+1.4%~+1.7%
	< +1.2% >		<+1.6%>	

【出所】日本銀行、Bloomberg

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。